

平成 27 年度

事業報告書

社会福祉法人 福岡県母子福祉協会
母子生活支援施設 百道寮

目 次

1. 平成 27 年度 事業報告

(1) 事業概況…………… P 2～3

(2) 参考資料

① 事業実績報告書 …………… P 4

② 行事・会議・研修参加状況 …………… P 5

1 平成27年度 事業報告について

(1) 事業概況

① 事業活動

ア. 管理運営

(ア) 定員 45 世帯に対し、平成 27 年度の平均入所世帯数は 38.5 世帯であり、充足率は 78%となっている。

(イ) 本年度の緊急一時保護世帯は 35 世帯 57 名（合計のべ日数 240 日間）で、緊急避難的要素を持った母子世帯及び単身女性のニーズは依然として多く、居住場所の確保のみならず、関係機関との連携を図り今後の安心した生活に向け支援を行った。

(ウ) 母子福祉関係機関、団体とのネットワーク作りに努め、協議会等が開催する事業、研修会に積極的に参加し、知識を深め職員の資質の向上に努めた。

イ. 母子を対象とした支援について

(ア) 利用者にとって「安心感のある生活の場」であるために、利用者との信頼関係の確立を目標とし、利用者の人格を尊重した日常のきめ細かなふれあいを大切にすることで、利用者の情緒の安定を図ると共に、担当制を導入し利用者が安心して相談できるよう配慮した。

(イ) 母親の若年化と心身に障がいのある利用者が増えるなか、日常生活が困難な利用者に対して、職員の専門性を高めるとともに他の関係機関との連携を図りながら利用者の支援を行った。
また、月に 1 回の自立支援会議や、週に 1 度の担当者会議を実施し、処遇の向上に努めた。

(ウ) 虐待等による心的外傷のため心理療法を必要とする利用者には、遊戯療法やカウンセリング等の心理療法を実施し、利用者の安心感の再形成及び利用者の抱えている問題や悩みを一緒に考え手助けすることを目的に心理カウンセラーを配置し、利用者の精神的自立に向けた支援を行った。

(エ) 学童については、基礎学力の定着を目指し、毎日 20 分間の学習時間を設けるとともに、中学生の学習指導を週 2 回実施している。また、受験生等には時間外も学習室を開放し、学習のできる環境作りと必要に応じて個別の学習指導、学習指導費を活用し学習塾の利用など学力向上へと繋げた。

今年度より、健全育成に向けての取り組みの一環として、講師を招き入れ性教育を実施した。

(オ) 平成 24 年度より、母子生活支援施設は社会的養護関係施設に位置付けられ施設利用者に対し、公的な責任で支援を提供するようになった事を受け、職員の意識改革を図るとともに、職員全体で自己評価を実施し、自分たちの課題と問題点を把握する事で、より質の高い支援の提供を目指した。

(カ) 平成 26 年 11 月に施設内保育の認可を受け、若年母子や育児不安を抱える母親のストレス軽減を図ると共に、ペアレントトレーニング等を積極的に取り入れ悪循環に陥る前の支援強化を行った。子どもの健全育成に向けて、体を使った遊びが常にできる環境整備を行い実施した。

食育に関しては、旬の食材を実際に触れさせ口にする機会を増やすことで、食への関心や物を大切に作る気持ち作りへと繋げた。

② 施設・設備の改善について

ア. 福岡生命保険協会より、9 万 6 千円の寄付金を頂き、保育室で使用する幼児の絵具や粘土、工作用品を購入し、用品の充実を図った。

③ 地域との交流について

ア. 子ども会育成会、婦人部会を中心に、地域行事等への参加を積極的に推進し、母子生活支援施設に対する正しい理解・認識の促進を図り、地域に密着した施設作りに努めた。

イ. 小・中学校、保育園との連絡を密にし、児童の健全育成、母子福祉の向上に努めた。

④ ボランティアについて

ア. 福岡ローターアクトクラブより、大運動会の招待を受け学童との交流を図った。
(博多っ子交流会)

イ. 平成 27 年 2 月より毎週土曜日に百道公民館にて西南学院大学の学生による学習ボランティアの事業が開始され、中学生が参加した。